



旭川市の水道と下水道は いくらかかっているの？

令和 6 年度の決算

令和 7 年(2025年)10月

旭川市水道局



目次

はじめに	1
● 水道局ってどんなところ？	2
1 水道局の組織	2
2 水道局の会計と事業経営	2
3 事業の進め方は？	3
● 水道事業（水道事業・簡易水道事業）	4
1 水道水は、どこでどのくらいつくっているの？	4
2 令和6年度の水道事業の決算は？	5
3 水道水をつくるために、どれだけお金がかかったの？	6
4 水道水をつくり届けるための施設の整備に、どれだけお金がかかったの？	7
5 水道事業の経営状況はどうなの？	8
● 下水道事業（公共下水道事業・農業集落排水事業）	10
1 下水は、どんな処理をどのくらいしているの？	10
2 令和6年度の下水道事業の決算は？	11
3 下水を処理するために、どれだけお金がかかったの？	12
4 下水を集め処理するための施設の整備に、どれだけお金がかかったの？	13
5 下水道事業の経営状況はどうなの？	14

※ この冊子では、予算・決算等の金額を万円単位で整理しており、端数処理により金額の合計または差引が内訳と一致しない場合があります。

はじめに

水道・下水道は、私たちの暮らしにかかせないインフラです。

今や水道・下水道は、日々の暮らしで当たり前の存在になっており、その大切さをあまり意識しなくなってきているのかもしれません。

近年、全国各地で災害が多く発生していますが、ライフラインが機能しなくなったとき、一刻も早く復旧が望まれるものは、水道・下水道ではないでしょうか。

水の供給がストップしてしまうと、飲み水の確保はもちろん、手を洗うこともトイレを使うこともできなくなります。

家庭や企業などからの下水が処理されなくなると、衛生状態が悪くなり、病気も発生しやすくなります。

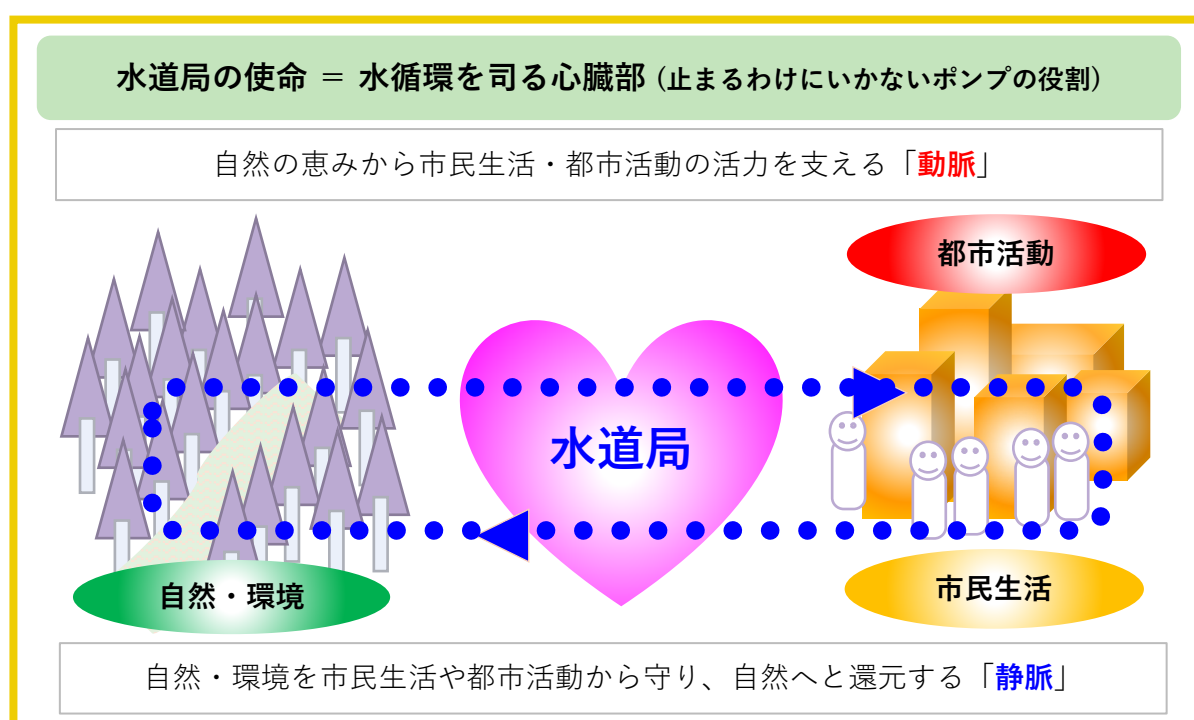
水道局では、安全で安心な水道水をお届けするため、また、衛生的で快適な環境を維持するため、常に水道・下水道施設の運転管理や維持補修を行っています。

そのため、水道事業、下水道事業それぞれに100億円を超える費用が毎年かかっており、皆様からの水道料金・下水道使用料によって賄われています。

この冊子は、令和6年度の決算をもとにまとめたものです。

私たちの水道・下水道を維持していくために、どのようなことにいくらの費用が必要なのか、どのような取組をしているのかを知っていただく一助になれば幸いです。

旭川市水道局

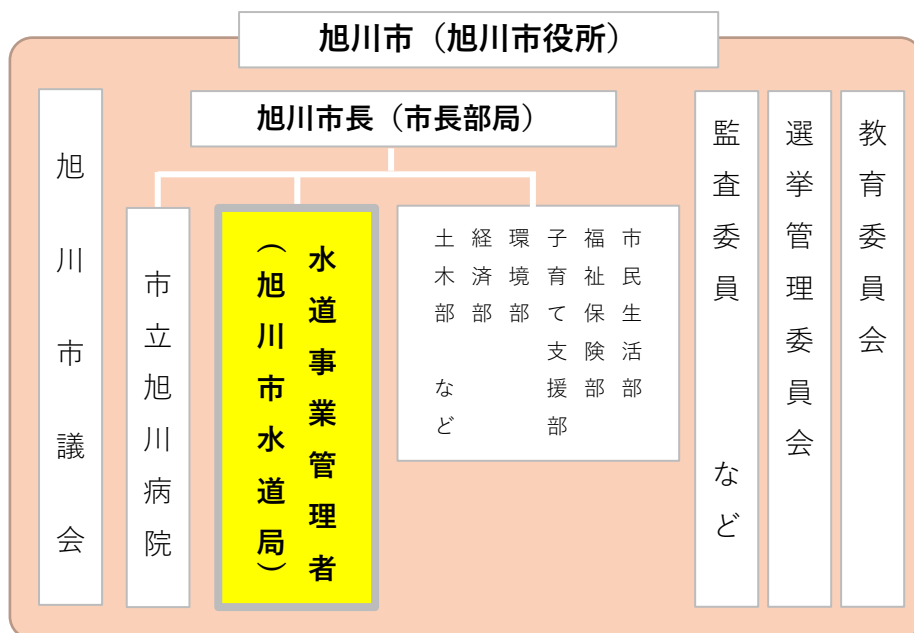


● 水道局ってどんなところ？

1 水道局の組織

旭川市役所には、旭川市長（市長部局）や教育委員会などの様々な組織があり、市民生活やまちづくりにかかわる事業を行っています。

水道局も市長部局に属する組織ですが、市長が任命する「水道事業管理者」のもと、水道水の供給や下水の処理に関わる事業を経営しています。



2 水道局の会計と事業経営

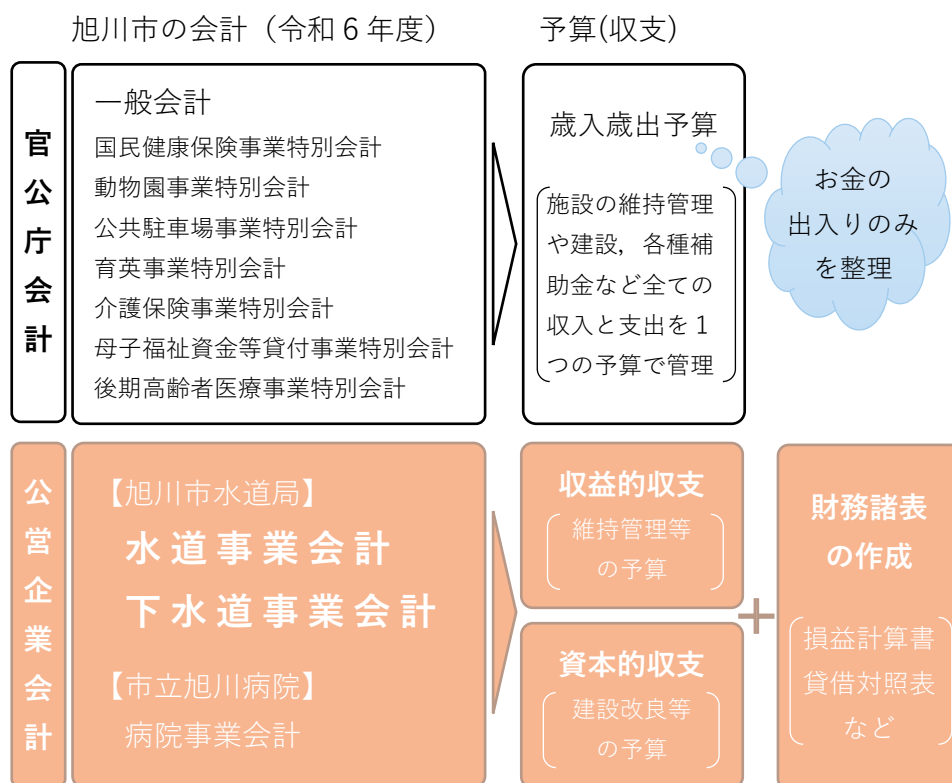
水道水を供給する「水道事業」と下水を処理する「下水道事業」は、一般会計等から独立した会計で、事業を営んでいます。

また、電気やガスと同じように、利用した水の量に応じて皆様にご負担いただく料金で事業を運営する、**独立採算制**を基本としています。

水道局では、水の供給や下水処理のため

の施設の維持管理費など、事業の運営コストに見合う料金を合理的に計算する必要があるため、民間企業の会計に近い**公営企業会計**を採用しています。

公営企業会計の予算（収支）には、施設の維持管理費や資産価値の減少（減価償却費）等の支出（費用）と皆様にご負担いただく料金等の収入（収益）を整理する「**収益的収支**」に加えて、施設（資産）の新設・更新（取替）を行う建設改良費や、その建設改良のために借り入れたお金（負債）に関わる収入と支出を整理する「**資本的収支**」があります。



3 事業の進め方は？

水道局では、水道・下水道事業を総合的かつ計画的に推進するための指針（経営戦略）として「旭川市水道・下水道ビジョン（平成28年度～令和9年度）」を策定するとともに、ビジョンの実現のため、計画期間を4か年ごとに区切って策定する「財政計画（前期・中期・後期）」に基づきながら、事業を運営しています。

令和5年度に「後期財政計画（令和6～9年度）」を策定し、令和6年度はその初年度として、各種取組を計画的に進めました。

【経営戦略】

旭川市水道・下水道ビジョン (平成28年度～令和9年度)

前期財政計画
(平成28～令和元年度)

中期財政計画
(令和2～5年度)

後期財政計画
(令和6～9年度)

【後期財政計画で見込んだ主な課題への対応】

○ 施設の老朽化対策

水道水の供給や下水の処理（上下水道システム）を維持するためには、老朽化した施設を計画的に更新していく必要があります。

水道事業では、中期財政計画に引き続き、配水管総延長の1％に相当する22キロメートルを各年度に更新していく目標を掲げ、令和6年度は24キロメートルを更新しました。

また、下水道事業では、下水処理センターの場内配管を更新したほか、下水汚泥を処理する際に生じた可燃性ガスを活用する自家発電設備の更新工事に着手しました。

○ 浸水対策の推進

短時間で大量の雨が降ると、雨が市街地にあふれてしまうため、降った雨を速やかに川に流せるよう、下水管（雨水管）を整備し、浸水被害の解消・軽減を図っています。

幹線となる雨水管の管径は非常に大きく、工事が大規模になることから、道路工事と施工時期を調整するなど効率的に取り組んでおり、令和5年度に引き続き石狩川左9-1号幹線（中央橋通北旭川駅付近）、旧永山3号川上流1号幹線（永山東光線 永山南駅付近）の整備を継続しました。

● 水道事業（水道事業・簡易水道事業）

1 水道水は、どこでどのくらいつくっているの？



水道水（簡易水道を除く。）は、石狩川から取水する**石狩川浄水場**と、忠別川から取水する**忠別川浄水場**の2か所で作っています。

川から取り入れた水（原水）は、含まれる汚れを薬品の働きで固まりにして沈め、砂の層でろ過することで濁りなどを取り除き、最後に塩素で消毒することで水道水になります。

できあがった水道水は、高い場所にある配水場へ送って一度貯められ、総延長 2,274キロメートルに及ぶ配水管を通して、皆様にお届けしています。

コ

ラ

ム

簡易水道施設とは？

給水人口が 101人以上5,000人以下の区域を対象とした小規模な水道施設を簡易水道施設といい、旭川市内では、西神居地区と江丹別地区で整備しています。

「簡易」という表記であっても、水道水と同じ水質基準の安全・安心な水をお届けしています。

2 令和6年度の水道事業の決算は？

		予算額 (A)	決算額 (B)	翌年度繰越額 (C)	差 (B+C-A)
収益的収支	収入 ①	68億8,178万円	68億1,973万円	—	△6,205万円
	支出 ②	61億7,934万円	58億3,702万円	41万円	△3億4,191万円
	①-②	7億 244万円	9億8,271万円	—	—
資本的収支	収入 ③	46億6,187万円	36億7,234万円	—	△9億8,953万円
	支出 ④	83億2,288万円	72億6,491万円	7億 656万円	△3億5,141万円
	③-④	△36億6,101万円	△35億9,257万円	—	—

※ 金額は税込みです。

※ 予算額 (A) には、補正予算額と前年度繰越額が含まれます。

令和6年度の水道事業は、水道水をつくり、皆様にお届けするため、施設の維持管理費などで、**58億3,702万円**を支出しました（**収益的支出**）。

また、老朽化した水道管の取替えをはじめとした建設改良費などで、**72億6,491万円**を支出しました（**資本的支出**）。

これらの収支の詳しい内訳は、次ページ以降で説明します。

「収益的収支」における消費税の取扱いについて

収入及び支出の全てを計上する必要があるため、上表の予算額(A)及び決算額(B)は消費税を含んだ表記になっており、これを「総計予算主義」といいます。

一方、水道事業や下水道事業は、消費税法の適用対象ですので、皆様が水道料金などをお支払いいただいた際の消費税は、最終的に水道局が税務署に納めています。

このように、消費税は「預り金」の性格が強く、消費税を除いて考えた方が経営状態をよりの確に把握できますので、決算書などに掲載する損益計算書等は税抜額で表記します。

この冊子でも、予算額や決算額は税込表示、それ以外の収益的収支は税抜表示としています。

コ ラ ム

「収益的収支」における「純利益」とは？

次のページに「当年度純利益」という言葉が出てきます。利益と聞くと、「水道局は儲かっているの？」と感じられるかもしれません。

この利益の使いみちは、過年度の赤字（欠損金）の補填や、施設を整備したときに借りた企業債の返済に充てることを市の条例で規定しており、旭川市水道局では企業債の返済に活用しています。

利益の活用を通じて、大規模な施設を適切に維持し、水道水の供給・下水処理サービスを持続していくための健全経営に努めることで、利用者の皆様に還元しています。

● **水道事業**

3 水道水をつくるために、どれだけお金がかかったの？

収益的支出は、水道水をつくるため、水道施設の維持管理や運転などを行う費用です。

これらの費用は、皆様にご負担いただく水道料金をはじめ、収益的収入で賄われています。

収入 62億5,998万円

支出 56億8,149万円

● **給水収益**

51億9,664万円

水道料金の収入

(税抜)

● **物件費 17億1,159万円**

・取水費・浄水費

10億1,384万円

取水場や浄水場の維持
管理費、電気代、修繕
費など

・配水費・給水費

4億6,557万円

水道水を一時的に貯め
ておく配水場や各家庭
などに水を送る配水管、
給水管の修繕費や点検
費など

・業務費・総係費

2億3,218万円

水道メーターの検針や
料金の請求・収納など
事業運営に係わる事務
経費

● **職員給与費 5億4,319万円**

● **減価償却費・資産減耗費**

31億8,592万円

施設の耐用年数や除却等
により資産価値の減少分
を費用化したもの

● **支払利息 2億2,268万円**

借入金の返済利子

● **その他の費用 1,811万円**

● **負担金・補助金**

4億4,501万円

消火栓の維持管理費や、
量水器等の費用で下水
道事業が負担する分の
収入など

● **長期前受金戻入**

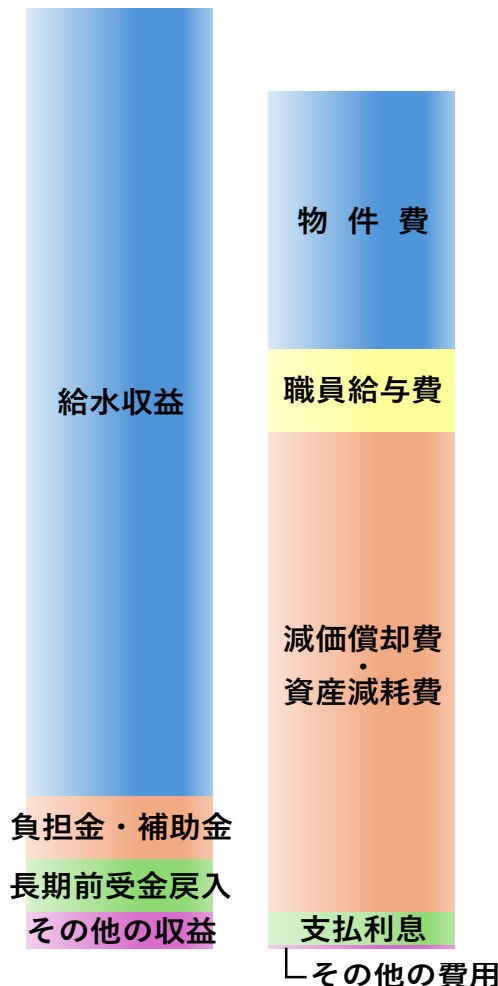
3億5,082万円

施設の整備時に収入し
ていた補助金等を施設
の耐用年数などに合わ
せて収益化したもの

● **その他の収益**

2億6,751万円

他町へ水道水を供給し
た分の収入など



収入 - 支出

**当年度純利益
5億7,849万円**

この純利益は、企業債（施設の更新等で借り入れるお金）の返済のために積み立てておく**減債積立金**として、その全額を積み立てました。

4 水道水をつくり届けるための施設の整備に、どれだけお金がかかったの？

水道施設は、取水場、浄水場、配水場のほか、総延長 2,274キロメートルに及ぶ配水管で構成する大規模な施設です。資本的収支は、水道施設の整備に係る支出とその財源です。

収入 36億7,234万円

支出 72億6,491万円

●企業債 34億 390万円

施設を整備するための
借入金

●国庫補助金

1億 477万円

施設を整備するための
国からの補助金

●他会計出資金

8,961万円

施設の整備等に対する
一般会計からの出資金

●その他の収入

7,406万円

配水管の移設工事等に
対する関係機関等から
の負担金など

(税込)

●企業債償還金

25億3,006万円

借入金の返済元金

●建設改良費 47億3,485万円

・配水管 30億6,421万円

配水管を25.0km整備

(更新24.3km、新設0.7km)

・取水施設 1,256万円

石狩川浄水場の計装機器
の更新等

・浄水施設 2億7,650万円

忠別川浄水場の中央監視
設備の更新等

・配水施設 8,574万円

市内各所の水量などを
測定する流量計や水圧
計などの更新

・量水器 8億8,745万円

各家庭などの水道メー
ターを更新(23,454個)

・その他事務費など

4億 839万円

工事の設計費や人件費など

他会計
出資金

国庫補助金

その他の収入

企業債

企業債償還金

建設改良費

その他の
支出

収入 - 支出

この不足額は、昨年度の純利益で積み立てていた減債積立金 9億7,375万円と、減価償却費などで企業内に蓄えた内部留保資金（損益勘定留保資金等） 26億1,882万円で補填しました。

資本的収支(不足)

△35億9,257万円

● 水道事業

5 水道事業の経営状況はどうか？

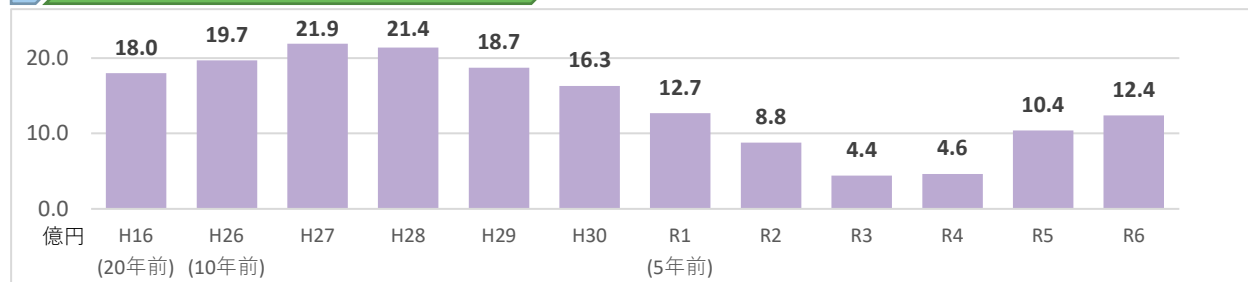
給水人口と給水収益の推移



給水を行った人口（給水人口）は年々減少しており、節水機器の普及などもあって、水道料金の収入（給水収益）は減少していましたが、令和4年7月の料金改定により増加しました。

令和6年度の給水収益は52億円で、10年前と比較すると、2億7千万円上回っています。

年度末資金残高の推移



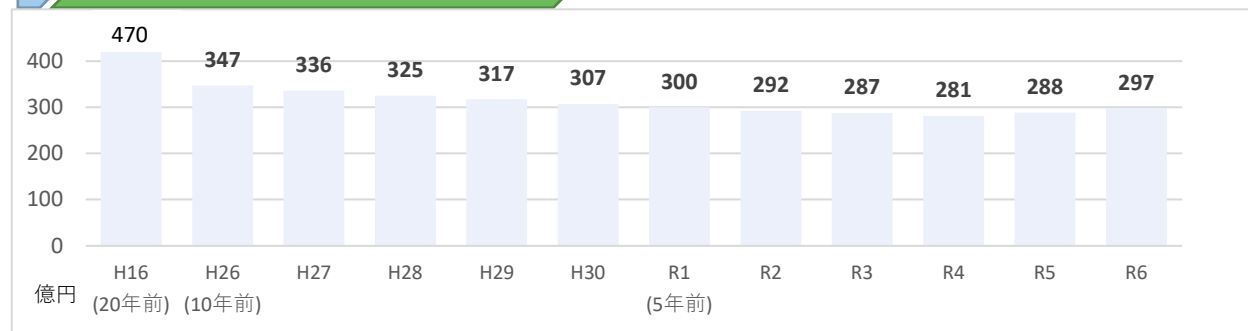
年度末資金残高は、建設改良費や企業債返済などの財源とするなど、経営を行う上で欠くことのできない事業資金のことで、一般的には内部留保資金とも呼ばれています。

令和6年度末の残高は12億4千万円で、後期財政計画で見込んだ8億5千万円よりも3億9千万円の増となりましたが、人口減少等による給水収益の減少や、老朽化した施設の更新経費の増加などが見込まれるため、引き続き経費節減に取り組んでいく必要があります。

【参考】令和6年度末資金残高 12億3,717万円 = 当年度純利益 5億7,849万円

+ 翌年度繰越の内部留保資金 6億5,868万円

企業債残高の推移

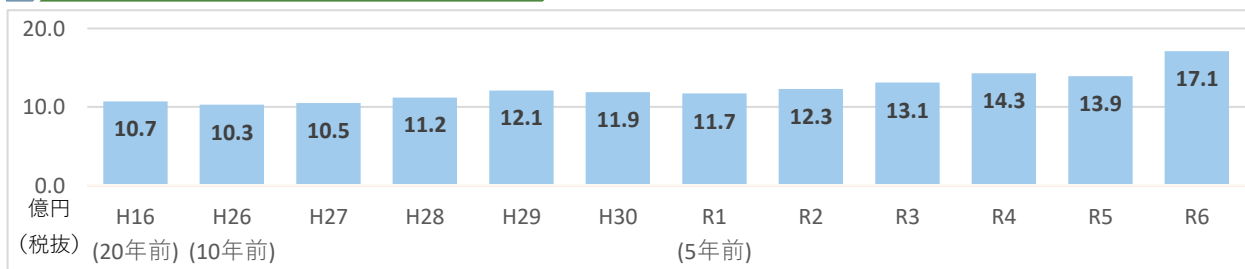


令和6年度末の企業債残高は297億円で、10年前よりも50億円の減となっています。

これまでは減少傾向でしたが、施設更新量の増加に伴い、2年連続増加しており、今後も施設の更新を進めるため、残高は増加していく見込みです。

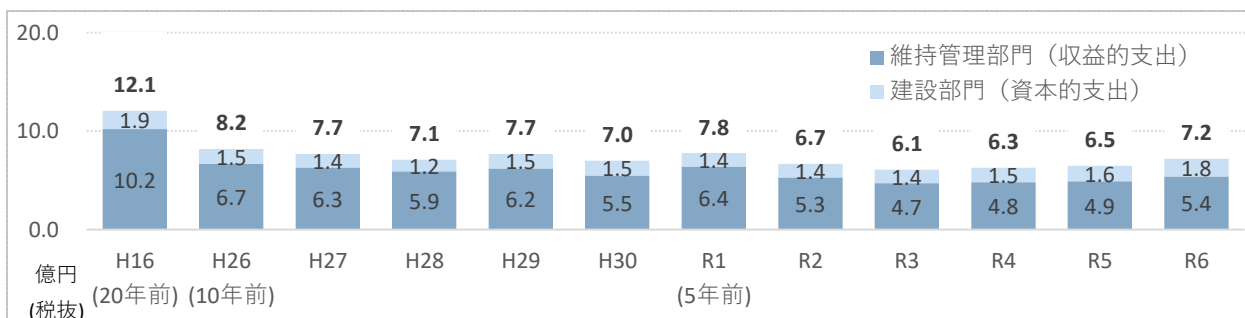
維持管理費（物件費）の状況

物件費：取水費、浄水費、配水費、給水費、業務費、総係費の合計



物件費は、近年の物価高や労務単価の上昇等により増加傾向が続いているため、経営状況は年々厳しくなっていますが、安全安心な水道水を安定してお届けするため、より一層の経費節減等の経営効率化に取り組みます。

人件費（職員給与費）の状況



令和6年度の職員給与費は、国に準じた給与改定に伴い、増加傾向にありますが、人員の削減や業務の見直しを進めてきたことなどにより、10年前と比較すると、1億円の減となっています。

建設改良費の状況

◎配水管の更新 (29億8,918万円)

漏水が発生しやすい塩化ビニル製の配水管や、老朽化が進んでいる配水管などを24.3km取り替えました。

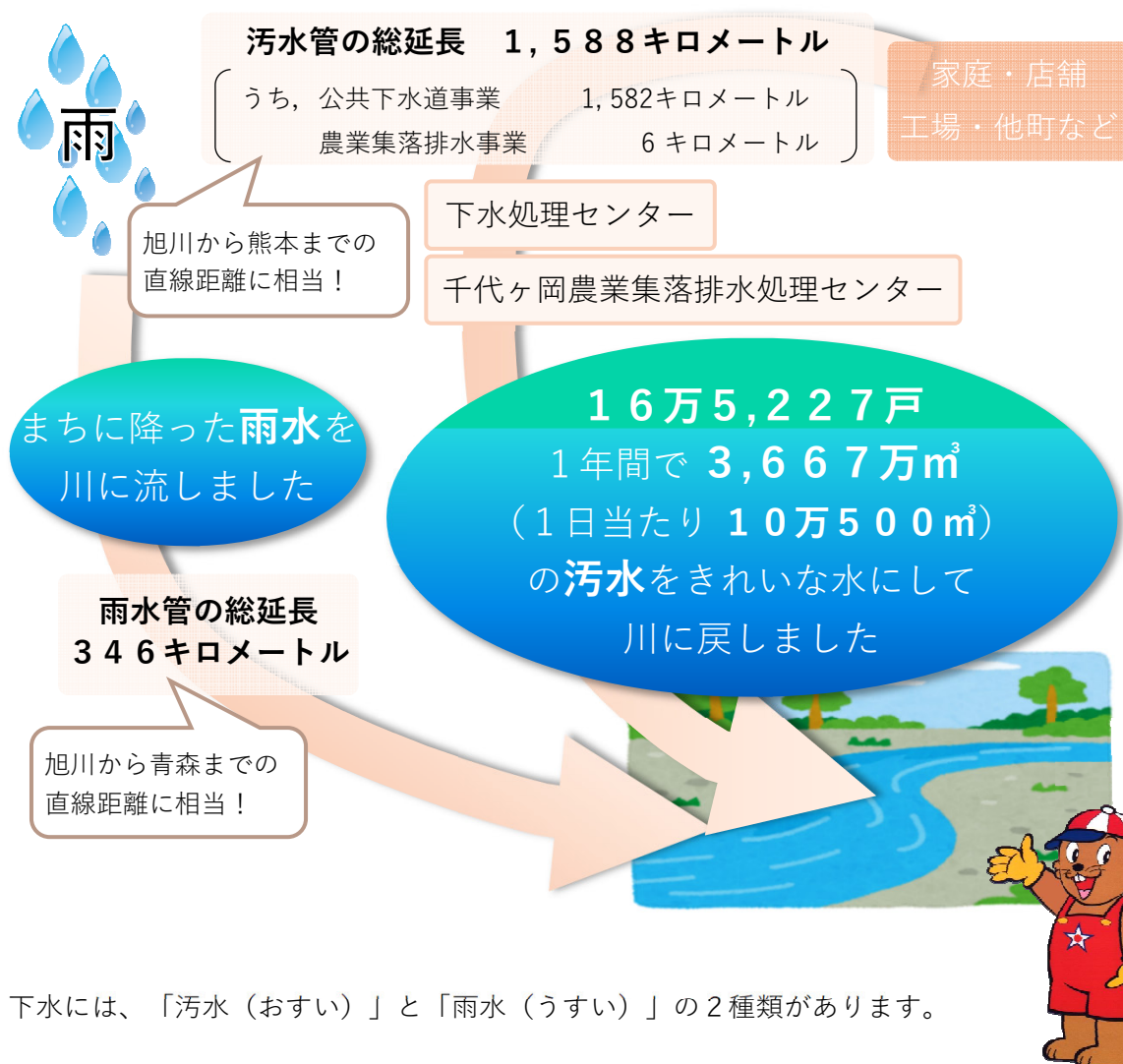
- ・塩化ビニル製の配水管 20.3km 17億7,262万円
- ・老朽化が進んだ配水管など 4.0km 12億1,656万円

◎忠別川浄水場中央監視設備の更新 (1億2,320万円)

水道水をつくるための各種機械を監視・制御するための機器で、設置から20年以上経過していることから、令和3年度から令和6年度までの4年間をかけて更新しました。

● 下水道事業（公共下水道事業・農業集落排水事業）

1 下水は、どんな処理をどのくらいしているの？



下水には、「汚水（おすい）」と「雨水（うすい）」の2種類があります。

「汚水」とは、台所や浴室、トイレなどから排出される生活排水のことで、公共下水道では、総延長1,582キロメートルに及ぶ下水管（汚水管）を通して**下水処理センター**に集められます。

集められた汚水は、砂やごみを除いたあと、微生物の力を借りて水と泥に分け、分けられた水は消毒してから石狩川に戻します。

泥は、メタンなど有用なガスを発生させた後、焼却し、灰はセメント原料として利用し、残りは埋立処分します。また、発生させたガスは、施設の暖房や発電用の燃料として再利用しています。

汚水は、近隣の鷹栖町、東神楽町、当麻町、比布町、東川町からも集められ、下水処理センターで共同処理しています。

このほか、千代ヶ岡地区では農業集落排水施設を整備し、千代ヶ岡農業集落排水処理センターに汚水を集め、きれいな水にしてから辺別川に戻しています。

一方、「雨水」とは、降った雨や雪解け水のことで、まちの浸水を防ぐため、長さ346キロメートルの下水管（雨水管）を通して川に流します。

また、大雨時の浸水に対応できるよう、排水ポンプ車などの機材を備えています。

2 令和6年度の下水道事業の決算は？

		予算額 (A)	決算額 (B)	翌年度繰越額 (C)	差 (B + C - A)
収益的収支	収入 ①	95億2,483万円	93億5,322万円	—	△1億7,161万円
	支出 ②	94億 393万円	89億9,332万円	—	△4億1,061万円
	①-②	1億2,090万円	3億5,990万円	—	—
資本的収支	収入 ③	45億 411万円	21億2,407万円	—	△23億8,004万円
	支出 ④	72億3,518万円	48億7,264万円	14億1,004万円	△9億5,250万円
	③-④	△27億3,107万円	△27億4,857万円	—	—

※ 金額は税込みです。

※ 予算額 (A) には、補正予算額と前年度繰越額が含まれます。

令和6年度の下水道事業では、下水を排除・処理するため、施設の維持管理費などで、**89億9,332万円**を支出しました（**収益的支出**）。

また、老朽化した下水処理施設の更新、下水管の整備といった建設改良費などで、**48億7,264万円**を支出しました（**資本的支出**）。

これらの収支の詳しい内訳は、次ページ以降で説明します。

コ ラ ム

「減価償却費」とは？

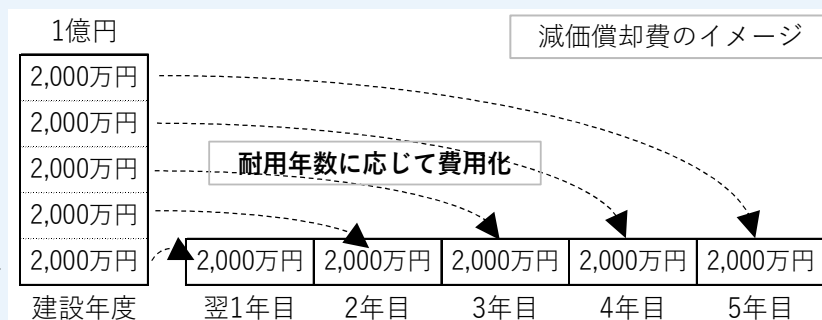
収益的支出の中に「減価償却費」という費用があります。「減価償却費ってなに？」と思われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

水道管や下水管、施設・設備などの資産は年数が経つと古くなり、資産価値が減少していきます。

減価償却費は、資産価値の減少分を毎年の費用（コスト）と捉えるものですが、なぜこのように取り扱うのでしょうか？ 例えば、耐用年数（一般的に使用に耐えられる年数）を5年とする施設を1億円で建設した場合に、この全額を建設した年度の費用として整理するとどうなるのでしょうか？

右の図のように、全額を建設年度の費用に整理すると、その年度の利用者だけで非常に大きな負担をすることになります。

水道・下水道の施設は、大規模な建設費を必要としますが、耐用年数も40年、50年と、長く使い続けることができます。



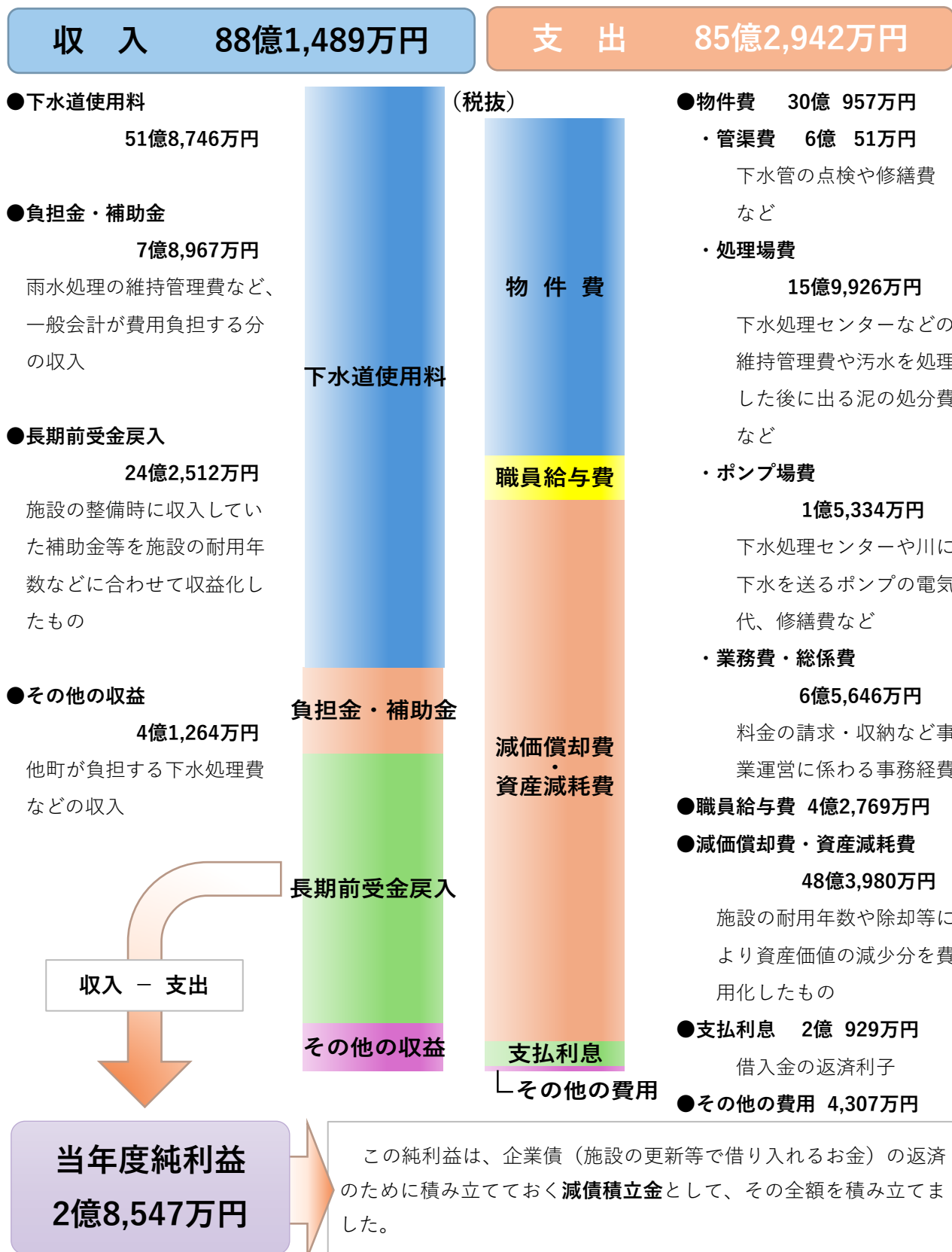
費用を平準化し、使用する世代間の負担の公平を図る観点からも、耐用年数に応じた減価償却によって、適正に料金などに反映し、水道・下水道のシステムを維持する仕組みになっています。

● 下水道事業

3 下水を処理するために、どれだけお金がかかったの？

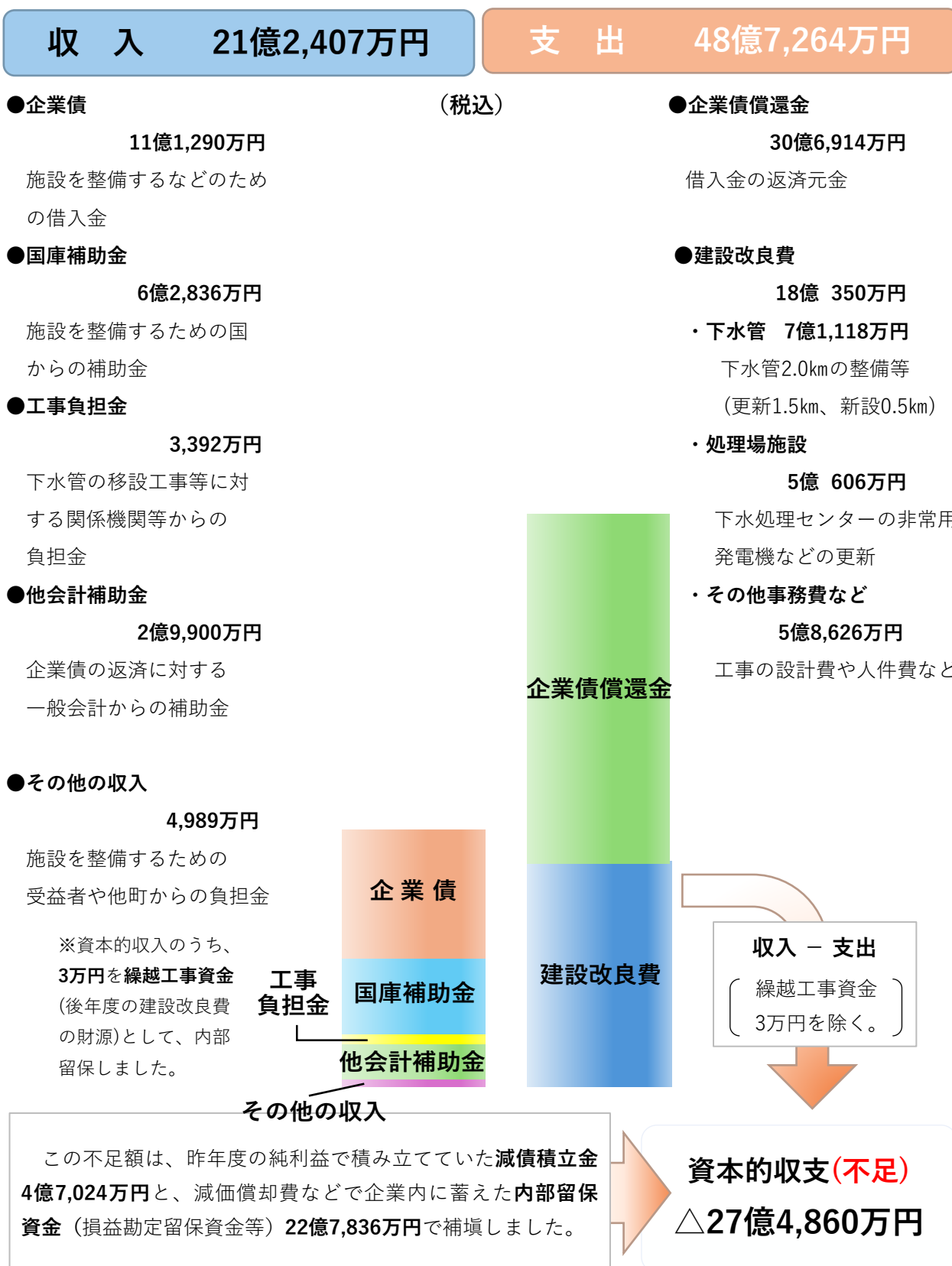
収益的支出は、下水を処理するために、下水道施設の維持管理や運転などを行う費用です。

これらの費用は、皆様にご負担いただく下水道使用料をはじめ、収益的収入で賄われています。



4 下水を集め処理するための施設の整備に、どれだけお金がかかったの？

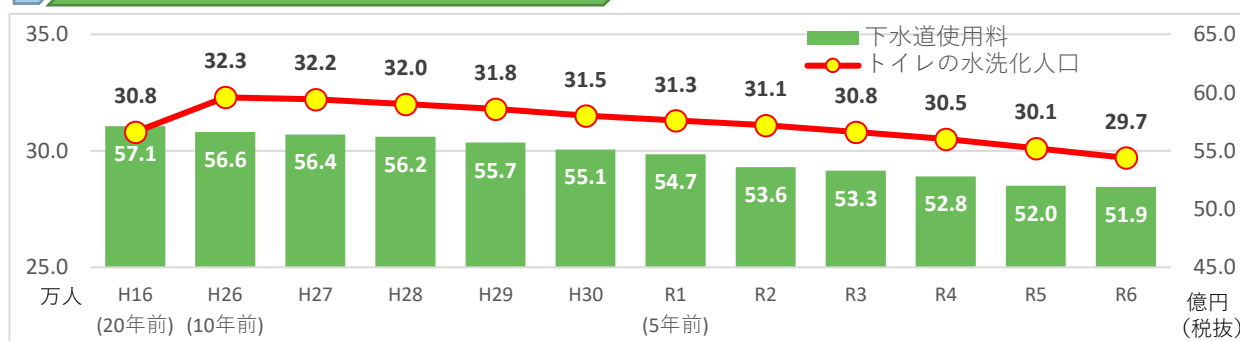
下水道施設は、総延長 1,934キロメートルに及ぶ下水管、汚水をきれいにする下水処理センターなどで構成する大規模な施設です。資本的収支は、下水道施設の整備に係る支出とその財源です。



● 下水道事業

5 下水道事業の経営状況はどうか？

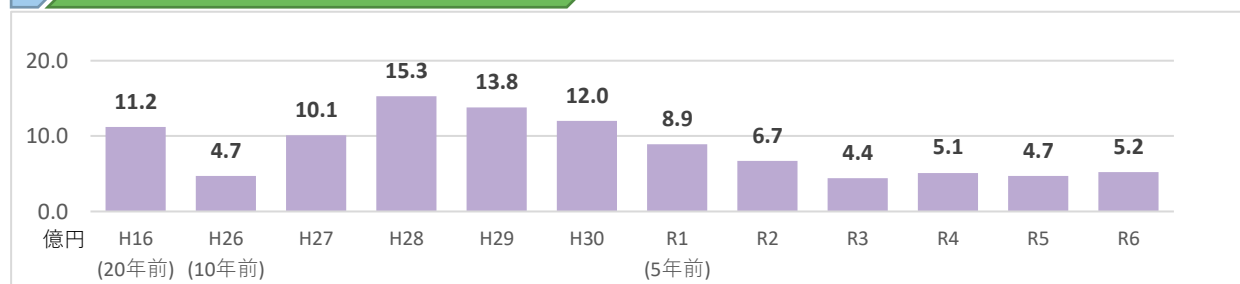
▶ トイレの水洗化人口と下水道使用



下水の普及を表すトイレの水洗化人口は総人口の減少とともに年々減少しており、下水道使用料は減少傾向にあります。

令和6年度下水道使用料は51億9千万円で、10年前と比較すると、4億7千万円の減となっています。

▶ 年度末資金残高の推移



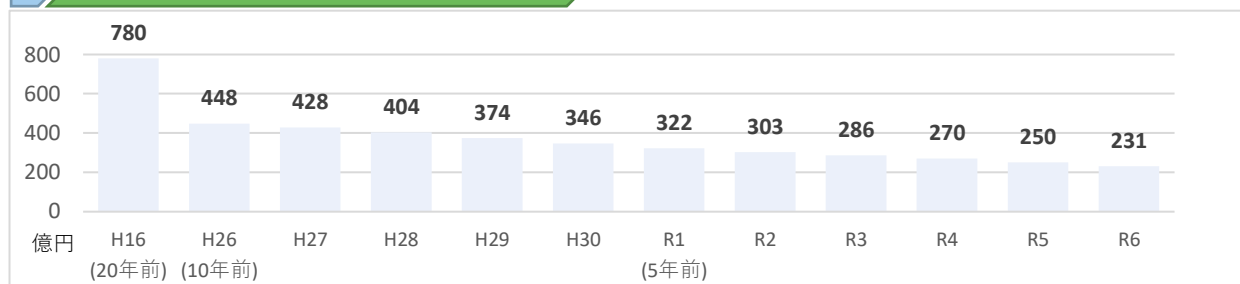
令和6年度末の資金残高は5億2千万円で、後期財政計画で見込んだ2億8千万円よりも2億4千万円の増となりました。

今後は、過去に借り入れた企業債の返済が徐々に終了していくため、資金は回復していく見込みですが、引き続き経費の節減などに取り組み、経営の健全化に取り組めます。

【参考】令和6年度末資金残高 5億2,108万円 = 当年度純利益 2億8,547万円 + 繰越工事資金 累計22万円

+ 翌年度繰越の内部留保資金 2億3,539万円

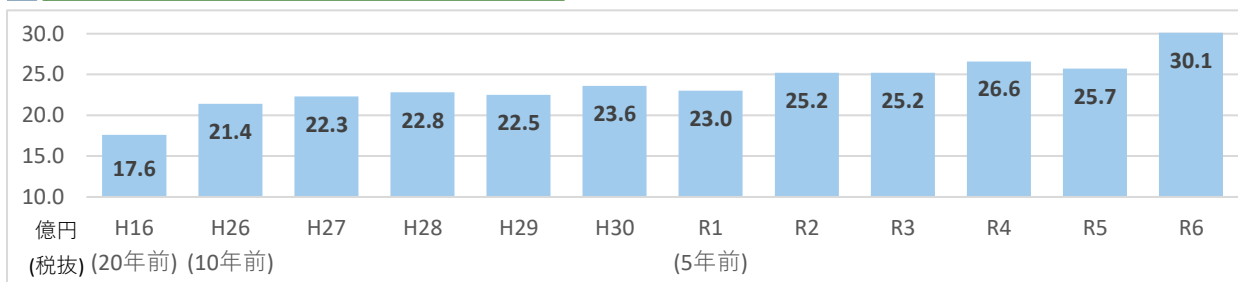
▶ 企業債残高の推移



令和6年度末の企業債残高は231億円で、10年前に比べ217億円の減となっています。

維持管理費（物件費）の状況

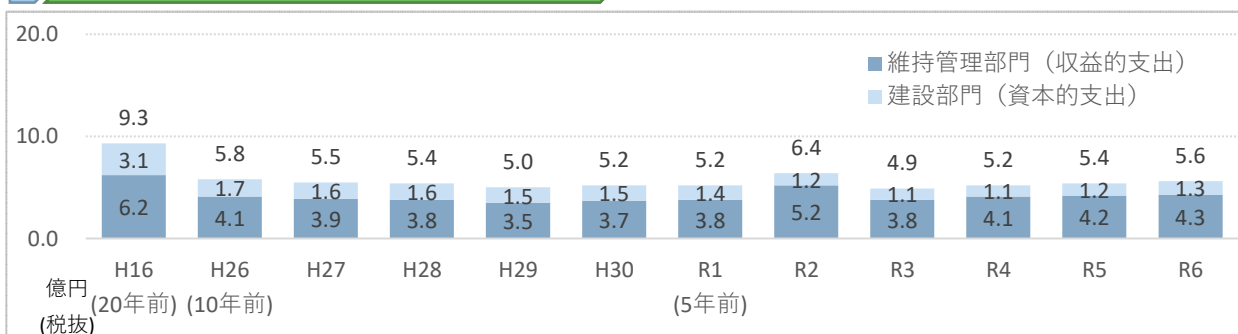
物件費：管渠費、処理場費、ポンプ場費、業務費、総係費の合計



物件費は、資材物価や労務単価の上昇等により増加傾向にあります。

今後、下水管や下水処理センターなど施設の老朽化が進み、点検費や修繕費など維持管理費の増加が見込まれるので、より一層の経営の効率化に取り組んでいきます。

人件費（職員給与費）の状況



水道事業と同様に、人件費は上昇傾向にありますが、人員の削減や業務の見直しを進めてきたことなどにより、10年前と比較すると、2千万円の減となっています。

建設改良費の状況

◎下水管の整備 (5億8,836万円)

永山地区などの管を新たに整備し、新旭川地区や西地区などの古くなった管を更新しました。

- ・汚水管の整備 1.7 k m 2億7,505万円
 - (内訳)
 - 新設 0.2 k m 3,887万円
 - 更新 1.5 k m 2億3,618万円
- ・雨水管の整備 0.3 k m 3億1,331万円
 - (内訳)
 - 新設 0.3 k m 3億 635万円
 - 更新 0.0 k m 696万円

◎下水処理センター各施設の更新 (5億606万円)

令和6年度は老朽化した場内配管の更新を行ったほか、令和8年度の完成に向け、自家発電施設の更新を進めました。



水道・下水道のお問い合わせは

旭川市水道局お客様センター

☎(0166) 2 4 - 3 1 6 3

営業時間：午前 8 時 4 5 分～午後 5 時 1 5 分
(土日・祝日はお休みとさせていただきます)



旭川市水道のマスコット
「水道ぼうや」



旭川市下水道のマスコット
「カンタくん」

発行：令和7年(2025年)10月

編集：旭川市水道局（上下水道部経営企画課）

〒070-8541

旭川市上常盤町1丁目

TEL 0166-24-3170（経営企画課直通）

FAX 0166-25-9500